

第8回有限体理論とその擬似乱数系列生成への応用ワークショップ開催報告

開催方法: 対面とオンライン(Zoom)のハイブリッド

開催期間: 2022年9月12日(月)

実行委員長 宮崎武(九州情報大学)

2022年9月12日(月)の、第8回有限体理論とその擬似乱数系列生成への応用ワークショップ(FFTRPSWS2022)を、今回は会場での対面とZoomによるオンラインでのハイブリッド形式にて開催しました。本ワークショップは、情報理論とその応用シンポジウム(SITA)および、International Symposium on Information Theory and Its Applications(ISITA)などにおいて、有限体理論や、その擬似乱数系列生成への応用、それらに限らず系列一般に関係するテーマに興味を持っている研究者が集い、日々の研究活動の中で得られた成果の報告をはじめ、疑問に思っている事柄、あるいは個人的な興味から深く掘り下げているテーマなどを、十分な時間をかけてお互いに紹介、共有し、密な議論を展開するための場を提供することを意図したワークショップです。

第1回目は2015年8月に群馬県吾妻郡草津町(草津温泉)で開催され、その後2016年9月に大分県由布市(湯布院温泉)、2017年10月に北海道旭川市(旭川市民文化会館)、2018年8月に山口県萩市(萩・明倫館)、2019年9月に福岡県福岡市(九州工業大学サテライト天神)で開催しました。2020年9月、及び2021年9月は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のまん延を受け、2年連続でオンラインのみでワークショップを開催いたしました。

第8回目となるFFTRPSWS2022は、3年ぶりの対面形式での開催を目指しましたが新型コロナウイルスの感染状況が予測できない中、長距離移動することが難しい遠隔からの参加者も考慮して、初めて対面形式とオンライン形式のハイブリッド開催を行うこととなりました。ただし、計画時点では開催時期での福岡地方の感染状況が予測できないため、仮に対面形式での開催が困難だと判断した場合には、完全オンラインでの開催に移行することを前提条件として設定しておりました。幸い、夏休み明けの9月でも対面形式での開催に支障が無い状況となり、無事ハイブリッド形式での開催を行うことができました。

当日は遠方からの参加者も含めて対面で13名、オンラインで5名の合計18名の方々に参加していただき、学生の発表3件を含む合計4件の講演(対面3件、オンライン1件)が行われました。特に開催数日前に急に予定が変更となり対面での参加が困難となった参加者がオンライン形式での参加に切り替えて無事に参加・発表ができたという事もあり、ハイブリッド形式の隠れた利点を体感することができました。

4 件の講演は、以下となります(敬称略)。

講演1 児玉 伊織(東京工業高等専門学校)

新しく発見された有限体上のアダマール型行列に関する一考察

講演2 佐藤 陵一(岡山大学大学院)

マルコフ過程と仮説検定によるRO型乱数生成回路の評価

講演3 原本 博史(愛媛大学)

符号理論によるラグ付きフィボナッチ生成法のサンプルサイズ上限の推定

講演4 井上 凌(北九州市立大学)

整数上のPLMを用いた擬似乱数系列の4つのパラメータに対する乱数性の一考察

これら4件の講演に対して、活発なディスカッションが行われ、講演者、参加者の皆様にとっては、有意義な時間となったことと推察いたします。また、第4回開催より作成を行っております予稿集につきましても、参加者の皆様へ配布いたしました。講演をしてくださいました皆様、熱心に質疑にご参加くださった皆様、参加していただきました皆様だけでなく、SITA サブソサイエティの皆様のご支援のおかげをもちまして、本ワークショップをつつがなく実施することができました。本当にありがとうございました。

次回開催では、現状よりも更に状況が改善して、過去行っていたような対面で実施できることを想像しつつ、本報告を締めさせていただきます。